

日本損害鑑定協会

第14回定時会員総会開催

24年度事業計画、収支予算など報告

日本損害鑑定協会は6月18日、東京都千代田区の損保会館で第14回定時会員総会を開催した。総会では、2023年度事業報告、24年度事業計画、24年度収支予算などを報告した。議事では23年度の計算書類承認の件など4議案を承認した。太田英俊会長(株)中央損保鑑定代表取締役社長は「これまで積み重ねてきた活動を充実させるだけでなく、新たな取り組みを積極的に実施し、継続的に発展を続けていけるよう努力していく」と述べた。

「真に社会が求める鑑定人を育てるのが役割」



太田会長



内山氏

冒頭、あいさつを行った太田会長は、「昨年は台風や集中豪雨などの影響から全国各地で水災等が発生し、また石川県や北海道などでは震度5を超える地震、今年に入っても元日から能登半島で震度6を超える大地震が発生しており、皆さ

ん大変忙しい毎日を過ごしていると思う」と会員各社の鑑定人をねぎらった。さらに、これから先の台風シーズンに向けて熱中症の注意喚起が行われているとし、健康管理への注意も促した。

続けて、昨年度1年間について、組織運営体制の強化や各種規程の整備、会員会社の鑑定人向けの技能向上取り組みである「ASC (Adjusting Skill s College)」をはじめとした各種研修の実施、損害鑑定フォーラムの開催、関連団体との連携等、充実した協会活動を推進できたと総括した。

最後に、「これまで積み重ねてきた活動をより充実させるだけでなく、新たな取り組みを積極的に実施し、継続的に発展を続けていけるよう努力

していく」と述べ、会員各社に一層の協力を呼び掛けた。

総会では、報告事項として23年度事業報告、24年度事業計画、24年度収支予算を報告した。また、①23年度計算書類承認②定款一部変更③理事選任④監事選任の4議案が審議され、全て承認された。理事選任の件では、会長の太田氏をはじめとする10人が再任と

なった他、4人の候補が新任された。その後、本総会をもって理事を退任した内山真氏(内山鑑定)代表取締役社長)があいさつを行い、現在、鑑定人の数が

6000人を超え、アジアスターの数を超える勢いで増えていることを報告した。その上で、「真に社会が求めている鑑定人を教育していくのが当協会の役割。協会是个社

にはできない問題解決のために存在していると捉え、業界のため、社会のために、当協会を皆さんでさらに前進させていた

だくようお願いしたい」と結んだ。